

若林構成員コメント資料

■ バックボーンとなる全体体系と全体ロードマップの策定が先ず必要と 考えます。

- 現状は、各プロジェクト・事業の関係が、外から見て見えにくい感
- 過去からの成果の積み上がりや継続性も見えにくい
- 例えば、 基盤技術、 統合化、 応用化のレイヤーで整理 等
- 農業という産業の構造改革を見据えた体系・ロードマップ策定
- 一番重要なことは、成果活用の担い手である生産者や普及組織にとり、
判りやすいこと

■ 目指すゴール（出口）の設定が重要であると考えます。

- 可能な限り、数値目標と目標時期を設定
- 市場（国内/グローバル）、商品戦略（日本品質/付加価値等）、経営
価値（収益/生産性等）の観点から整理 等
- 生産現場の観点、食関連産業の観点、農業周辺産業の観点 等

（スマート農業の将来像の例）

1. 農業の構造改革への貢献（大規模経営を実現）
2. 新たな担い手の参入促進（若者/女性等にも技術習得が容易）
3. ビジネスチャンスの拡大（販路開拓や商品開発に専念する時間を拡大）
4. 世界と勝負（品質と信頼のジャパンプランドで展開）
5. 新たな産業の創出（農業の知識産業化/農業周辺産業ソリューションビジネス化/輸出産業化）

- 「投資対効果」の視点や、「普及戦略」の視点が必要と考えます。
 - 技術的に優れているが、コストが担えるか、見合うリターンはあるか
 - 利用の担い手、普及の担い手、コストの担い手が誰か 等

- 海外ベンチマークは重要であると考えます。
 - 我々の強み・弱みの認識
 - どこで勝負するかの見極め
 - ターゲットとする市場・技術戦略・商品戦略 等

- 異業種の民間主導による知のコラボレーションを、一層推進することで、イノベーションの可能性は広がると考えます。
 - 製造業のものづくり、素材技術、エネルギー技術、データ分析技術

以 上